

未来眼やまがた 第5回

「子ども夢未来指向」で「やまがた改革」

2006年が幕を開けた。三位一体改革に象徴されるごとく、国と地方の関係が激変する中で、それぞれの地域が個性を発揮して、自立していかなければならない時代を迎えている。今後の県政の在り方などについて齋藤弘山形県知事に聞いた。

基本理念は「子ども夢未来指向」

町田 知事に就任されてまもなく一年ですが、大変エネルギーに活躍されており敬意を表する次第です。就任以来、毎日記者会見とか出前知事室の開催、知事交際費の公開、知事と部局長とのイン

齋藤 弘(さいとう・ひろし)

1957年山形市生まれ。東京外国語大学外国語学部卒業後、日本銀行等を経て、平成17年2月14日山形県知事に就任。

ナー・マニフェスト(政策合意)締結など、数々の斬新な取り組みをされておられますが、この一年を振り返ってみていかがですか。

知事 今年度、平成17年度を改革元年と位置付け、まずは改革のための土台づくりをやってきました。これまで注力してきたのは、情報の受発信と経費の削減、大きくはこの二つです。この間、県庁組織の改正、副知事二人制など、当面の改革を進めるにあたっての新しい体制づくり、土台づくりを終えたというところで、新しい発想とスピード感、そして大胆な決断力、この三つをモットーに山形を元気にしようと思っています。

町田 知事は、やまがた改革の基本理念として「子ども夢未来指向」を掲げていますが。

知事 改革の方向性が持続的に未来に向かっていくことが必要ではないかと思います。未来を担うのは次の世代の子どもたちです。子どもたちにより良い山形を残すことが今を生きる我々の責務ということで「子ども夢未来指向」と命名しました。我々がやまがた改革に取り組む際の原点として、また、今後の取り組みにおいてさまざまな課題に直面したときにもう一度立ち返って考えるべき原点として位置付けています。

改革の本丸は持続的な財政運営

町田 やまがた改革では、改革の柱として、効率のよい小さな行政の実現を目指しておられますが、改革の「本丸」はどのあたりになりますか。

知事 人によってさまざまな考え方があると思いますが、私はやはり持続可能な財政運営を実現することが、まさに改革の「本丸」ではないかと思います。これを実現するには容易なことではなく、県民に対しても相当程度の痛みを分かち合っていたかなければならないと思っています。そのためには、まず県庁組織が痛みを分かち合っているのだというところを県民の皆さまにご覧いただいて、そしてご理解を賜るということがどうしても必要になってきます。しかし、改革とい



うものは痛みを伴うものだけということだけではやはり足りません。「夢3倍の法則」というのがあります。例えば、今の痛みを10だとします。この10の痛みに耐えることによって、30の夢が実現できるのだということが分からないと、人間は自己改革が出来ないそうです。現状を変えることで将来がどう改善されるのか、具体的に描かなければ、県民には理解されません。県の次期総合計画が、「夢3倍の法則」に忠実に従っているかどうかは、これからの県民の皆さまのご評価ということになりますが、痛みと共に、その3倍くらいの大きな夢を描いていきます。

町田 国の財政再建も大きなテーマですが、地方の財政改革も大変だろうと思います。特に、県民に理解していただくのはなかなか大変ですから。知事自らが厳しく律して、先例を作っていくということですが、特に知事部局という自分を一番支えてくれるところを改革していくということで、これは並大抵ではないご覚悟と思います。

男女共同参画社会の実現は少子化対策

町田 男女共同参画社会の実現に対する知事の思いは、相当強いものがあると思っています。そのあたりをお聞かせください。

知事 荘内銀行は女性の活用で均等推進企業表彰の厚生労働大臣優良賞を受賞していますし、素晴らしいですね。ところで、10年を一昔、30年を一世代とした場合、一世代向こう側の山形県をみると、人口は今の約120万人から約100万人に、労働力人口は今の約65万人から約50万人になるという推計結果が出ています。それを前提に、他の経済的条件を一定にして、労働力人口を変数にすると、県内総生産額（県内GDP）は現在の4兆円台から3兆円台に減るということになります。そうなれば、今我々が享受している豊かさというのは、次の世代に伝えていくことができないわけです。「子ども夢未来指向」に沿って、豊かな山形をきちんと伝承していくこと、残していくことが我々の使命ですから、これはなんとかしなければということになります。労働力率を男女別にみると、男性は20歳代から60歳までほぼ100%に近いのに対し、女性は80%前後で20%も差があります。特に子育て期間といわれている20歳代後半から30歳代はさらに労働力率が落ち込んでいます。そこで、荘銀総研の推計結果を利用させていただきますと、これを仮に向こう30年間かけて、女性の労働力率を男性並に引き上げると、6兆円台に増えるとい



町田 睿（まちだ・さとる）

1938年秋田県生まれ。東京大学法学部卒業後、株式会社富士銀行入行。同行取締役総合企画部長、常務取締役を経て、94年株式会社荘内銀行取締役副頭取就任、95年より現職。

うことになるわけです。女性も男性もいきいき、のびのびと生活ができ、働くことができる。特に女性が働くことができるような社会環境整備を行っていくことが、極めて有力な一つの政策手段であるという結論に至るわけです。したがって、男女共同参画社会の実現は、裏を返せば少子化対策とも言えます。これを強力に押し進めることが、まさに「子ども夢未来指向」に合致した政策になると考えています。

町田 女性の副知事さんも大変優秀な方とお見受けします。女性が本来持っている能力をもっと発揮して、社会的にもより重要な役回りを背負っていけるようにしていけば、生産性、労働の付加価値を高めるだろうと思います。

知事 なぜ女性の副知事が必要かということですが、やはり世の中は、男性の気づきもあれば、女性の気づきもあります。そこを相補ってお互いの特質・特性を生かすことによって、政策を推進していくことが必要だと思っているからです。

地域コミュニティ全体で子育てを

町田 山形県の三世代同居率は、じりじり減ってはきていますが、いまだ全国一です。私は大家族主義信奉者で、世代間の慣習・文化を伝承していくインフラとしての大家族は大事なことではないかと思っています。同居とまではいなくても、スーブの冷めない距離が

どうかは別として、三世代の接点ができるだけ多い地域は大変魅力があると思います。

知事 私もそう思います。さらに、子どもの教育というのは学校と家庭だけということではなく、地域コミュニティ全体で子を育て、子を守っていく必要があると思います。やはり先人の知恵というのは、さまざまな局面で必要になってきますし、地域の伝統文化を伝承していく意味でも、おじいちゃん、おばあちゃんの知恵はとても大切だと思います。他人の子どもを叱るということが、近年必ずしもいいことではなくなってきました。しかし、他人の子どもでも、いいものはいいし、悪いものは悪いとはっきり言っていたら近所のおじいちゃん、おばあちゃんにいてもらいたいと思います。これがまさに、未来に広がる子どもたちの心、情操をきちんと育てるのだと思います。

町田 今、子どもの教育の問題はいろいろなところで注目されています。単に知識を詰め込むだけではなく、人間をつくるということになると、やはり家庭教育だとか、もっと言えば、知事が今おっしゃった、地域が人間教育をしていくという面が非常に大きいと思います。

知事 安心・安全の面でも地域コミュニティ力は大事だと思います。災害が発生したときは初動が大切です。地域コミュニティ力がなぜ大事なのかということ、例えば、一人暮らしの老人の家が災害で不幸にも崩壊してしまったとします。地域の人なら、普段寝ている部屋はあのあたりだ、と家の中のどこを探せばいいかがわかります。知らなければ、あっちかな、こっちかな、ということになります。地域コミュニティ力を大切に育てていけば、安心・安全面でもものすごい威力を初動において発揮できます。ありとあらゆる面で地域のコミュニティ力を大切に、そうした力を組織立って活用していくことが必要になってくると思います。それが最終的には、小さな県政、小さな行政にもつながっていく問題だと思っています。

広域連携による経済力の拡大

町田 ところで、今の経済は行政の枠を越えていきます。知事が近隣県との広域連携を非常に意識しておられて、積極的に各県の知事さんと交流を図られているのは素晴らしいことだと思っています。隣県とあまり親しくなると、ストロー現象がおけるといった意見もあるようですが、そうではなく、お互いのいいものを交換し合う、それぞれが得意分野で伸びていくという

発想にすると随分違ってくるように思います。

知事 週末に県内の蕎麦屋さんの駐車場を見ると、多くは宮城県ナンバーだったりしますからね。そうした意味でも、これからは比較優位の世界で物事を考えていこうと思っています。特に産業集積を図っていくときには、広域連携でやっていきたいと思っています。例えば、自動車関連産業は、大手自動車メーカーの主力工場が岩手県にあり、部品供給工場が宮城県にあります。そこに、鋳物の技術など山形県のものづくり力を自動車部品などに応用できないかということで、岩手・宮城・山形の3県で自動車関連産業での広域連携に具体的に取り組みます。工業出荷額ベースでは、福島県、宮城県について山形県は3番目ですが、工業製品の一人当たりの出荷額ベースでは山形県が東北では1番です。やはり当県は力を持っていると思います。

町田 ものづくりの資質という点では、山形県民というのは非常に高いレベルにあるのではないかと思います。ただ、自分から積極的に話はしませんが。

知事 山形弁で「あがすけ」という言葉がありますが、県内ではこの「あがすけ」は嫌われる気質ですね。やはり他人に自己アピールをしないことを良しとする、自慢しないことを良しとする風土・気質というのはあります。ものづくり力には非常に役立っていると思いますが、逆にそれが山形の良さを知らしめていないこともあると思います。

情報発信は非常に強力な武器になる

町田 確かに「あがすけ」に対する批判は相当ありますが、やはり情報を積極的に発信していこうという姿勢が大事だと思います。情報をもらうにも発信していないと情報は入ってきませんから。情報の受発信を通じていろいろな意味での交流があり、自分たちはどのようなものを持っているのか、どのような力を持っているのかを再認識できます。自らのアイデンティティを発揮できるという意味でも、情報に力を入れていかれることは大変大事な方向感だと思います。

知事 これは私が県知事選に立候補しようと思った背景の一つでもあります。さまざまな経済指標とか、全国ランキングなどを見ると、大抵の場合、山形県は下位グループに属しているのが現状です。しかしその一方で、東京や海外などの生活体験を踏まえて改めて自分のふるさつを見てみると、大変素晴らしいものがたくさんあります。自然資産はまだ豊富に残っていますし、食文化も大変豊かです。こうして見ると、経済

指標などに現れているものと我々が住んでいる実際の姿とのギャップがあります。その時に思ったのが、もっと山形県全体を情報発信すべきではないのかと。山形県を元気にするためには、積極的に情報発信する、もっと売り込むことが必要だということです。

町田 確かに、最近映画化された「蝉しぐれ」や「蕨の行」のきれいな原風景を見るにつけ、本当に日本の自然が我が山形県にはたくさん残っていると思います。そうした意味では、もっと自信をもっていいと思います。他県の方からは評価してもらえますから。

知事 イザベラ・バードが「東洋のアルカディア（桃源郷）」と言ったのも、ライシャワー博士が「山形 - 山の向こうのもう一つの日本」と言ったのも、まさにそれだろうと思いますね。例えば、九州の人に、山形県と聞くと、山形県 = サクランボで、それ以上の発想の広がりはないかなかないんですね。地理上の位置関係も、なんとなくぼんやりしているわけです。したがって、山形県は、サクランボだけではないのだ、他にも素晴らしいものがたくさんあるのだということのをこれからもっと広めていかなければいけない。私自身がトップセールスマンになると言ったのもこうした意味からです。昨年の夏、テレビドラマ「おしん」の子役として活躍した女優の小林綾子さんと一緒に、台湾へサクランボやお酒のトップセールスに行ってきました。「おしん」は世界数十カ国で放映されていて大変有名なのですが、残念ながら「おしん」と山形県はリンクしていないわけです。せっかく「おしん」がいるのに、十分に活用しきれていないと思いました。

黒船効果

知事 1月下旬、フランスのパリで「メゾン・エ・オブジェ」という世界トップレベルのインテリア国際見本市がありますが、県も支援している「山形カロツェリアプロジェクト」の製品が、9つあるブースの中で最もグレードの高いインテリアシーンに出展することになっています。カロツェリアプロジェクトのリード役である奥山清行さん（山形市出身の国際的工業デザイナー）にも大変ご尽力いただきました。過日私自身もその世界のカリスマといわれる主催者のエティヌ・コシェ氏と直接東京でお会いしてきましたが、「大変注目を浴びるだろう」と言っていました。

町田 知事は、英語、フランス語と語学が堪能ですからね。海外へトップセールスに行かれる知事というのは、全国的にもなかなかいないと思いますね。



羽黒山の石段と杉並木

知事 黒船で海外から門戸を叩かれ、日本は門戸開放に応じたということがありますが、海外で認めていただき、さまざまな雑誌に取り上げられ、そして日本人もそれを見るところとなり、やがて国内外で評判を呼ぶというような情報発信の仕方もあると思います。

町田 それは効果が大きいと思いますね。本来は、我々が自分たちの持っているものに対する自覚が必要なのですが、なかなかその自覚ができないわけです。黒船効果とでもいいますが、外からのアプローチ効果は非常に大きいでしょうね。

知事 これは外側からの戦略で、当然ながら内側つまり国内においても一生懸命やっていますが、両面作戦でやれたらいいと思っています。これはあくまでも一の矢で、二の矢、三の矢を考えていかなければいけないと思っています。

町田 地域の人たちが、自分たちで努力して、自分たちの故郷をつくりあげていく、そんな意識改革ができればいいと思います。優れた素材はたくさん持っていますし、それをトップセールスしてくれる大変素晴らしい、我々のリーダーである県知事もおられることです。本日はお忙しいところありがとうございます。